

紀尾井 だより

11/12

November, December 2019
Vol.138



紀尾井ホール

アモールとプシケ

制作総指揮・彌勒忠史 インタビュー

取材・文／萩谷由喜子

2020年3月、誰も観たことのない新作舞台
バロック・オペラ絵巻『アモールとプシケ』が上演される。
一体、どんな公演なのか、制作総指揮の彌勒忠史に語ってもらいました。

物語のあらましは？

「アモールは、絵画や彫刻などに登場する幼児の姿をした愛の神、キューピッドのことで、愛と美の女神ヴェーネレの息子です。ヴェーネレは、人間の娘であるプシケがあまりに美しいゆえに、人々から自分よりも崇められるようになっていくことに激怒して、息子のアモールに『プシケが世界で一番美しいでいいやらしい男と恋に落ちるよう、金の矢を射かけよ』と命じます。ところが、アモール

2020 3/19(木)・20(金祝)
18:00開演 14:00開演
販売中

興味津々の物語ですが、これは、既存のオペラなのでしょうか？

「ローマ時代の作家アプレイウスの『黄金のロバ』を踏まえて、日本語台本を書き起こしました。音楽はルネサンス期から初期バロック期のメガ・ヒット曲の中から、それぞれの場面にふさわしい曲を選びました。パステイッチョという手法です。台詞で物語を進行させますので、ジングル



梅若紀彰

20日

ヴェーネレ／父王
ダブルキャスト



観世喜正

19日



白髭真二

アモール／西風



花柳 凜

プシケ



濱田芳通

音楽ディレクター

シブビールというか、ミュージカルと考えていただいても結構です。日本舞踊、ダンス、能の要素に、古楽を組み合わせた和洋折衷の舞台作品です」

登場人物とキャストについていかがいます。

「アモールは神々の中で最も美しいといわれる美青年神です。多彩なジャンルに活躍するダンサーの白髭真二さんに踊っていただきます。プシケは美しいだけでなく、愛のためには勇敢になれる女性です。日本舞踊家の花柳凜さんをお願いしました」

能の世界からは、観世喜正さんと梅若紀彰さんがヴェーネレ役兼父王役をダブルキャストで務めますね。ともに、能楽界を牽引する能楽師です。

「私は、キャストイングで公演の成否が80%決まると思っています。観世流シテ方のお二人に出演をお願いしたら、1日だけなら何とか、とスケジュールを調整していただけ、夢のようなダブル・キャストが実現しました」

音楽の聴きどころをお教えてください。

「濱田芳通さん率いる古楽アンサンブル、アントネットが出演します。フルートとコルネットの濱田さん、ヴィオラ・ダ・ガンバの石川かおりさんはじめ、チェンバロ、リュートなど腕達者揃いの世界的スーパー古楽集団です。今回は箏の吉永真奈さんが共演しますので、和の音が加わってさらに面白くなるでしょう。」

歌はイタリア語ですが、日本語の台詞でストーリーが進行しますし、誰もが楽しめる舞台です。このかつてない音楽舞踊劇を、どうか実際に体験なさってください。お待ちしております」

公演特設サイトはこちら！



みろく・ただし

千葉大学・同大学院、東京藝大を経て、1996～99年パッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして活動後、イタリア政府奨学生として渡伊。世界水準のカウンターテナーとして国内外のオペラやリサイタルで活躍し、紀尾井ホールには「オリンピーアデ」(15年・17年)、午後の音楽会(17年・18年)に出演している。神奈川県立音楽堂ではファビオ・ピオンディ／エウローパ・ガラントのバロック・オペラ公演で演出を務め高く評価され、NHK「テレビでイタリア語」テキストでの連載(「歌うギリシャ神話」として単行本化)など文筆活動も好評で、活躍は多岐にわたる。邦楽とのコラボレーションにも意欲的で、市川海老蔵特別公演『源氏物語』では出演の傍ら、歌唱・音楽アドバイザーを務めている。2012年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

歴代の最優秀賞受賞者が出演します()は部門



第1回 田辺頌山(尺八)



第5回 山路みほ(箏)



第6回 菊田雄司(三味線)



第8回 遠藤千晶(箏)



第10回 岩田卓也(尺八)



第12回 北原香菜子(琵琶)



第14回 黒川真理(箏)



第18回 中彩香能(三味線)



第21回 本條秀慈郎(三味線)



第22回 岡村慎太郎(三味線)



第23回 大川義秋(箏)
©2019 Ookawa Yoshiaki

裏面には次の文章が彫られている。「生田流地唄、箏曲中興の師、長谷検校(幸輝 一八四二〜一九二五熊本県近代文化功労者)は苦境深まった明治の終わり、この地にけいこ場、住居を構え、多くの門人を育てました。宮城道雄師も教えを乞いにここにやって来ました。作曲もせず、ひたすら古曲に新しい息吹を吹き込むことに生涯をかけた長谷検校の芸譜を忍んでこの碑を建立します。(原文ママ)」

※1 江戸時代の男性盲人の職能団体

※2 当道座の階級。上位から検校、別当、勾当、座頭

ながたにゆきてる 長谷幸輝検校 (1842-1920)

1842年、現在の熊本市中央区上鍛冶屋町に誕生しました。6歳で失明し、地歌演奏家の道を選びます。後に東京へ出て九州系地歌を全国に普及させました。また、小ぶりだった地歌三味線の各部、胴、駒、棹、撥それぞれ改良を試み、現在普及している「九州三味線」と呼ばれる地歌三味線の基礎を確立していききました。当道座※1が明治4年(1871)に廃止された当時は「勾

昨年の賢順記念全国箏曲コンクールに引き続き、熊本県で開催しているくまもと全国邦楽コンクールが今年25回を迎えました。
2020年はコンクールの元となった熊本市の地歌三弦の名人として活躍したながたにゆきてる長谷幸輝検校の没後100年にあたることを記念して、その功績を辿るとともにこれまでの優勝者による演奏会を行います。

長谷検校没後100年 記念演奏会 2020 2/23(日)

14:00開演

友の会優先発売...11/5(火) 一般発売...11/7(木)

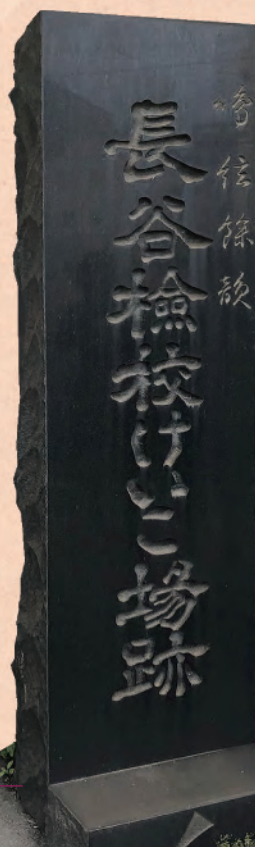
若手邦楽演奏家の 登竜門

当※2「で」した。その後、明治末期に彼が上京した折、その業績を高く評価した東久世伯爵から「検校」の称号を与えられたのです。さらに大阪で発足した地歌箏曲の団体「当道音楽会」から、日本一の名手として、明治44年(1911)に「名誉大検校」の称号も与えられることになります。

熊本県熊本市で開催される、長谷検校を顕彰して創設された「くまもと全国邦楽コンクール」は、邦楽の継承と発展を目的とし、「箏曲」「尺八・笛音楽」「琵琶音楽」「三味線音楽」「三曲等合奏」の5つの部門が行われています。年齢、国籍、プロ・アマチュアを問わず、将来邦楽の道を進む意思を持った方を対象とし、世界で活躍する多くの演奏家を輩出しています。毎年6月に行われ、全国各地から応募があり尺八の部は中国からの参加者も多いです。何度もチャレンジする出場者がいるほどになっています。

文芸作品と新曲

熊本地震から3年あまりが経ちました。少しずつ復興はしていますが、まだ道のりは遠く続いています。コンクールを主催しているくまもと大邦楽祭実行委員会は、地震の記憶を風化させず文化を継承していくために今年、「私たちの未来」をテーマとした文芸作品を募集したところ、市内はもとより全国から671点もの作品が寄せられました。今回の演奏会では、優秀作品を基に詩人の和合亮一氏に詞章を作成いただき、藤原道山氏に作曲を委嘱した邦楽作品を初演します。また、2020年6月14日の「くまもと大邦楽祭2020」(会場:熊本市市民会館)で、さらに編成を変えて披露します。熊本を題材とした新しい邦楽作品が、日本のみならず世界でも演奏されることを願っています。



おすすめ公演 Pick Up

Quartet Plus
KISHI HALL

クアルテット・エクセルシオ+

吉井瑞穂 (オーボエ) & 景山梨乃 (ハープ)

12/12 木

19:00開演

販売中

優れたクアルテットが話題のアーティストとの共演で、触発しあい深化する音楽を聴く室内楽シリーズQuartet Plus。今回は2年前に続きクアルテット・エクセルシオが、国際的オーボエストの吉井瑞穂と若手実力派ハーピストの景山梨乃とともに、チェコの作曲家クヴィエシュの「フルビーン変奏曲」を演奏します。音楽史上類を見ない楽器編成ですが、オーボエとハープが大活躍!アンサンブルとしても各楽器の調和が見事なこの作品の日本初演となります。このほか、ハープとクアルテットによる際立つ色彩感が魅力的なカブレとドビュッシーの作品、弦楽器のピッツィカートが活躍することから、その愛称が付いたベートーヴェンの弦楽四重奏曲「ハープ」、凝縮された哀調の中に品位と優雅さをまとったモーツァルトのオーボエ五重奏曲も演奏します。名手たちの奏でる至高の室内楽をご堪能ください。



クアルテット・エクセルシオ



吉井瑞穂 ©Marco Borggreve



景山梨乃 ©N.Ikegami

近松門左衛門作 鶴澤燕三作曲・復曲 「歌かるた」素浄瑠璃公演 2020. 2/26 水

14:00開演

小ホール

友の会優先発売 11/12 火
一般発売 11/14 木



豊竹睦太夫



竹澤宗助



豊竹呂勢太夫



鶴澤燕三

時は平家全盛のころ。武家の法を司る男たち、
王朝の美学に生きる女たちが織りなす近松の人間世界を、
鶴澤燕三が色鮮やかに甦らせます。

とあるシリーズ公演の中で「芝」をテーマとした演目の候補となったのが、この「歌かるた」です。芝といえば増上寺ですが、そこから江島生島事件*を連想しました。

近松が江島生島事件を基に書いたこの文楽作品は、横笛・滝口、かるも・義次の二組の恋人たちを登場させることで、この事件が江島一人の問題ではなく、大奥における集団の事件であるという近松の現実世界への眼差しを映しだしています。近松ならではの詞章とその華麗な作劇術がふんだんに盛り込まれた本作品。詞章はありますが、残念なことに音は失われ、上演が途絶えていました。そこで、今年5月開催の「出世景清」でも見事な作曲をされた鶴澤燕三師にお願いをしたのが数年前のことです。

「歌」とは「見目良き」という意味で、三段目で美少女たちが「歌かるた(百人一首)」をしている美しい場面が作品の題名になりました。今回は、三段目の前半「重盛館大広間の段」を新たに作曲、そして後半「中宮御所歌かるたの段」を鶴澤友造師が写していた鶴澤友次郎師の朱(三味線の譜)を元に復曲していただきました。でき上がった作品は、公演に合わせてカットしてしまうのが惜しまれ、素浄瑠璃公演として三段目丸ごとお届けする運びとなりました。燕三師が意欲的に取り組んだ本作をどうぞ最後までご堪能ください。

*七代將軍の頃、大奥大年寄江島はじめ女中数名が芝増上寺へ、御年寄宮路らが上野寛永寺へ向かった帰途、山村座で芝居見物をしていた件で処罰を受けた。

邦楽名曲 解体新書

私のおすすめ
この一曲

お話 鶴澤藤蔵さん
つるさわとうぞう

人形浄瑠璃および歌舞伎の演目
寛政十二年(1799)初演
近松柳・近松湖水軒・
近松千葉軒 合作

【あらすじ】明智光秀の「三日天下」を題材とする。本能寺の変から、光秀が秀吉に討たれるまでの十三日間を二日一段、計十三段で描く。山場は十段目「尼ヶ崎の段」。逆賊の汚名を着る光秀は、誤って自らの手で母親を刺し殺してしまう。そこへ、戦場で負傷した息子が戻ってきて、味方の敗北を伝えて息を引き取る。

第四回

文楽 絵本太功記

悲壮感あふれる物語を
力強く、華やかに

『絵本太功記』は平成8年に父が九代目竹本綱太夫を襲名した際、私が初めて父の相三味線に指名された思い出深い曲です。よく上演されるのは十三段の内の十段目「尼ヶ崎の段」。太功記といえは十段目を指すほど有名な場面、この段は通称「太十」と言われるようになりました。

武智光秀(史実では明智光秀)は主君を討ちますが、その母・皐月は謀反人となった我が子が許せない。皐月は光秀の罪深さを思い知らせるために、わざと光秀の手にかかります。全段にわたって悲しい物語ですが、三味線は悲劇の場面をあえてパアツと華やかに弾くことがあります。浄瑠璃らしい趣向といえるでしょう。例えば光秀が皐月とは知らずに竹槍で突いてしまった時、光秀の妻・操は「これ見たまえ、光秀どの」と夫を責める。ここは「操のクドキ」と言われ、悲劇なのにリズム感があって音楽的です。

光秀が登場する場面は「現われ出たる武智光秀く！」と竹藪から出てきて見得を切るところで、三味線がダダダーン!という打楽器のような

音を出します。ここは大変盛り上がるころなので、趣味で義太夫を習っている方は皆さん、稽古して発表会で披露したがりですね。

迫力ある場面では弦を弾く時に皮も一緒に叩くのでババン!と破裂音がします。義太夫の撥は他の三味線のものに比べて太くて重いんですよ。太功記の大落とし(クライマックス)では光秀が号泣します。普通、男は、特に武將は泣かないのですが、それが泣くのだから余程のこと。その時三味線は「んーっ」と弓を引くように結構な力を込めます。子どもの頃、太夫がものすごい大声を張り上げるのを見て、自分の体力では無理だと思つて三味線の道を選んだのですが、それはそれでものすごく力が要る(笑)。師匠からは「手で弾くな、腹で弾け」と言われていました。



目をつぶつていても
情景を表せるように

他のジャンルの三味線はきれいな音色や旋律を弾きますが、義太夫節は場面に合った雰囲気や感情を表さなければいけません。いくらきれいに弾けてもそれは義太夫節の三味線ではない。場面によつては「わざと下手に弾け」と言われたこともあるほどです。例えば『近頃河原の達引』の「堀川猿回しの段」。破れ障子の貧民窟では鮮やかに弾くと変でしょう。御殿じゃないんですから。

私たち演奏者はお客さまに「目をつぶつていても情景が見えてきました」と言っていたたく位の気構えでやっています。名人の落語を聞いていると、耳だけでも「今、人が変わったな」あつちから人が来る」など空間を感じられますよね。ですので、初めての方はまず人形に目がいくと思います。が、回を重ねる毎に太夫・三味線に興味がわき、後には素浄瑠璃だけでも十分に情景を浮かべていただけると思います。

※太夫と三味線のみで、人形を伴わない浄瑠璃の演奏形式

◆ 鶴澤藤蔵(つるさわとうぞう)〈文楽三味線〉◆

1976年、十世竹澤弥七に入門、五代目鶴澤清二郎を名乗る。1978年、鶴澤清治の門下となり、1983年初舞台。1996年、父・竹本綱太夫(故源太夫)の相三味線となり、2011年に親子でそれぞれの祖父の名跡を襲名、二代目鶴澤藤蔵となる。2011年伝統文化ボーラ賞奨励賞、2012年日本芸術院賞、他受賞多数。重要無形文化財総合指定保持者。



文・イラスト/尾花知美
(月刊『江戸楽』編集部)

ミュージカル

をめぐる3つの話 文・山田治生



幾多の名曲・名歌を生んでいるミュージカル。クラシック音楽とも深い関わりのある作品もたくさんあります。ミュージカルの今、オペラとの親和、そしてヒットナンバーを多数世に出した大作曲家、シェーンベルクをめぐる3つのお話です。

1 ミュージカルとオペラ

近年、ミュージカルとオペラのボーダーレス化が進んでいます。たとえば、オペレッタの殿堂、ウィーン・フォルクスオーパーの2019〜2020シーズンでは、「サウンド・オブ・ミュージック」や「マイ・フェア・レディ」が上演されますし、2018年には「回転木馬」も取り上げられていました。「回転木馬」は、ロンドンのイングリッシュ・ナショナル・オペラ(2016年)やシカゴ・リリック・オペラ(2015年)でも上演されました。かつてはキリル・ペトレンコ(現ベルリン・フィル首席指揮者)が音楽監督を務めたベルリン・コーミッシェ・オーパーでは、

今シーズン、「ウエスト・サイド・ストーリー」や「屋根の上のヴァイオリン弾き」が上演されます。オペラハウスのミュージカルの上演はますます定着しています。

一方、歌手では、人気ソプラノのルネ・フレミングが、2018年、ブロードウェイのインペリアル劇場での「回転木馬」に出演し、権威あるトニー賞の助演女優賞にノミネートされました。名バリトンのブリン・ターフェルは、「スウィニー・トッド」のタイトル・ロールをこの15年ほど、レパートリーとしています。オペラ歌手のミュージカルへの意識も変わってきているようです。

2 プッチーニとミュージカル

アメリカ軍人とアジア女性の悲劇を描く「ミス・サイゴン」がプッチーニのオペラ「蝶々夫人」のベトナム版であることはよく知られていますが、プッチーニのオペラのミュージカルへの影響はそれ

だけではありません。ロック・ミュージカル「レント」もプッチーニの「ラ・ボエーム」を原作としています。「レント」では、場所を19世紀半ばのパリのカルチエ・ラタンから20世紀末のニューヨークのイースト・ヴィレッジに移し、ミミは結核ではなくエイズを患っています。また、「ラ・ボエーム」自体も2002年にブロードウェイで上演されたのです。プッチーニのオペラとミュージカルとの近さを感じないわけにはいきません。

3 クロード・ミッシェル・シェーンベルクについて

クロード・ミッシェル・シェーンベルクは、「レ・ミゼラブル」の作曲者として知られています。シェーンベルクといえば、十二音技法の創始者であり新ウィーン楽派の中心人物であったアルノルト・シェーンベルクが思い出されますが、クロード・ミッシェルとアルノルトとは遠い親戚にあたる(共通の親戚がいる程度)ものの、クロード・ミッシェルは、フランス人だけに、「シェーンベルク」ではなく「シェーンベルグ」と記するのが正しいのかもしれません。

クロード・ミッシェルは、1944年、フランスのブルターニュ地方で、ハンガリー系ユダヤ人の家庭に生まれました。父親はピアノの調律師でした。ロックバンドでピアノを弾いていたクロード・ミッシェルは、映画の「ウエスト・サイド・ストーリー」を見て、強い衝撃を受けたといいます。その後、ミュージカルの作曲を手掛けるようになり、「レ・ミゼラブル」(1980年)でブレイクするのでした。その後ミュージカル界の大作曲家となったシェーンベルクは1989年に「ミス・サイゴン」を完成させます。

ミュージカルをめぐる紀尾井ホール公演

12/21(土)・22(日)

各日 16:00開演

日鉄ソリューションズプレゼンツ
紀尾井クリスマスコンサート2019

歌で楽しむクリスマス2 聖夜の奇跡

12/21(土) ともに残席僅少
12/22(日)

出演

嘉日真木子(ソプラノ)、西村 悟(テノール)、北翔海莉(ヴォーカル)
加藤昌則(ピアノ・編曲・構成)、水谷 晃(ヴァイオリン)、辻本 玲(チェロ)
長谷川初範(司会・語り)、ハルモニア・アンサンブル(混声合唱)

曲目

〔第一部〕プッチーニ:誰も寝てはならぬ(『トゥーランドット』より)
プッチーニ:愛らしい乙女よ(歌劇『ラ・ボエーム』より)
ロジャース:すべての山に登れ(『サウンド・オブ・ミュージック』より)
ロウ:踊り明かそう(『マイ・フェア・レディ』より)
C.M.シェーンベルク:世界が終わる夜のよう(『ミス・サイゴン』より) ほか
〔第二部〕On the Christmas day〜
今夜、紀尾井ホールに起きるクリスマスの奇跡

フォトレポート

最近の公演から

7.25
木

紀尾井 明日への扉
第24回
ディアナ・ティシチェンコ (ヴァイオリン)



アンケートより

素晴らしい(ピアノも含めて)!20世紀のこれら個性的な4曲の魅力を余すところなく表現した見事な演奏。

7.28
日

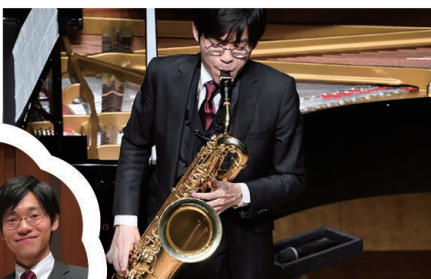
紀尾井の入門! 2019
邦楽の手ほどき 学べる和楽器



▲長唄の唄ワークショップ。抑揚と、古い日本語の詞が難しい!

9.12
木

紀尾井 明日への扉
第25回
本堂 誠 (サクソフォン)



▲本堂誠さんの代名詞ともいえるバリトンサクソ。繊細な音からダイナミックな音まで自由自在です。

7.12
金

伊藤恵プロデュース
ピアノ! ピアノ!! ピアノ!!!
紀尾井ホール・新ピアノお披露目アンサンブルコンサート



▲大トリは出演者全員で、北村朋幹さんが編曲した『ボレロ』を演奏、圧巻でした。

7.27
土

紀尾井の入門! 2019
ようこそ邦楽 誰でもトライアル



▶韓国の伝統楽器「カヤグム」が初登場

アンケートより

一番楽しかったのはびわです。全部楽しかったけどびわが一番たのしかったです。

9.5
木

音楽でつづる文学 2
平家物語
— 竹生島 —



▶竹生島にまつわる曲をさまざまなジャンルで紹介しました。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員

(五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略) 2019年10月1日現在

- 特別協賛 日鉄ソリューションズ/三菱商事
- みやび会員 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほかに匿名2社
- ひびき会員 オカムラ/きらぼし銀行/竹中工務店/山下設計
- みどり会員 青鬼運送/赤坂維新/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/A.ランゲ&ゾーネ/NSシンフォニーオーケストラ/NTTドコモ/佐原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/スタインウェイ・ジャパン/西武プロパティーズ/大成建設/高砂熱学工業/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/日活アド・エージェンシー/日本ハム/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士ゼロックス/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱電機ビルテクノサービス/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージアム/明治座舞台/ヤフー/ヤマハサウンドシステム/有帆
- あおい会員 青木陽介/石崎智代/磯部治生/井上善雄/片山能輔/栗山信子/近藤貴子/佐久間庸行/佐部いく子/志立正嗣/清水多美子/清水康子/鈴木 亮/高下謹彦/高橋義徳/外山雄三/中西達郎/西村烈美/原田清朗/北條哲也/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/養輪永世/陸田 実/村上喜代次/村田正仁/持宗一郎/八木一夫/八木晶子 ほかに匿名21名 計88口

特別支援会員

(社名五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエス・エヌエック/大阪製鐵/丸栄工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シヤリング/山九/産業振興/三興金属工業/サンユウ/三洋海運/ジスター/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄ソリューションズ/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製鐵/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートの工業/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄環境/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄テックスエージ/日鉄ドラム/日鉄新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ポルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本船渠/日本鐵板*/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/古川工業

日本製鉄

(2018年度・匿名1社除く)

※2019年7月1日よりNST日本鉄板へ商号変更

紀尾井インフォメーション

第32回 紀尾井友の会イベント

「彌勒忠史 恋の季節・初秋のアモーレ!」を開催

暦の上では秋を迎えた8月24日(土)、紀尾井小ホールで友の会イベントを開催しました。今回は2020年3月開催のバロック・オペラ絵巻「アモーレとプシケ」をプロデュースするカウンターテナー歌手・彌勒忠史さんをお招きして、物語にまつわる歌とトークでお楽しみいただく趣向。彌勒さんの美しく澄んだ歌声、高本一郎さんのリュートの優しい音色は、まだ暑さの残る初秋の午後に一服の清涼剤となりました。また、ギリシャ・ローマ神話に登場するアモーレとプシケを題材とした古今の彫像や絵画をプロジェクターで映し出して、物語を生きて語っていただきました。

公演の詳細はP2



左から彌勒忠史さん、高本一郎さん



公演前には今年35周年を迎えた、レストラン「トゥールダルジャン 東京」で、このイベントのために作られた豪華メニューを味わう昼食会を開催しました。参加された皆さま口々に「とても素晴らしいかったです! ぜひまた開催してください」と、興奮の面持ちで感想を語ってられました。



TOUR D'ARGENT
T O K Y O

紀尾井友の会 特典施設の ご紹介 37



※写真はイメージです。

崑いち御膳 3,850円(税込)
生バラちらし御膳 4,180円(税込)
鯛御膳 3,100円(税込)
牛ロース網焼御膳 3,080円(税込)

■営業時間 11:30~15:00(LO 14:30)
17:30~22:00(LO 21:30)

■定休日 毎週、日曜日 ■お問合せ TEL.03-6256-9663

東京ガーデンテラス紀尾井町 3F 銀座 崑いち

紀尾井ホールから徒歩5分ほどの場所に位置する東京ガーデンテラス紀尾井町にある「銀座 崑いち」は、手間をかけ、技が光る大皿料理が自慢の店です。ランチタイムでは本格的な割烹料理を楽しめる松花堂弁当「崑いち御膳」をはじめとして「生バラちらし御膳」「鯛御膳」「牛ロース網焼御膳」といった4種類の御膳をご用意しております。ほっと落ち着く店内で、コンサートの前に和の心に触れるひと時をぜひお過ごしください。

紀尾井友の会会員さま限定特典 11月30日まで

ランチタイムご利用の際に小鉢を無料で1つサービス
※ご来店時に会員証をご提示ください ※紀尾井友の会、優待サービスとの併用可 ※ディナータイムでの利用不可



紀尾井ホール室内管弦楽団

Kioi Hall Chamber Orchestra Tokyo

東海市公演のご案内

2020年2月16日(日)15時開演 東海市芸術劇場大ホール

紀尾井ホール室内管弦楽団は愛知県の東海市制50周年を記念して、東海市芸術劇場にてお祝い公演を行います。生誕250年を迎える楽聖ベートーヴェンの「傑作の森」(ロマン・ロランの言)といわれる年代の名曲から、記念公演にふさわしい贅沢なプログラムをお贈りします。



- 指揮・ヴァイオリン ライナー・ホーネック
- 曲目 ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲二長調 Op.61
交響曲第7番長調 Op.92
- 料金(税込) S:6,000円 A:4,000円 U25 A:1,500円
※当公演は「紀尾井友の会」「定期会員」への優先発売ならびに割引購入対象外
- お取扱い 中京テレビ事業チケットセンター
TEL 052-320-9933・WEBチケット
- お問い合わせ 中京テレビ事業
TEL 052-588-4477
(10時~17時/土・日・祝休)



2020年は紀尾井ホール 開館25周年!

来年はホール開館25周年のアニバーサリーイヤーです。1年を盛り上げる記念ロゴマークができました。クラシックホールのテーマカラー“緑”と、邦楽ホールのテーマカラー“紫”、そしてホールの特徴である木と、未来への光・ホールロビーに射す光のイメージで構成されています。さまざまな特別企画も目白押し! 次号、紀尾井だより139号でその全貌が明らかに。ご期待!



KIOI HALL
NIPPON STEEL
Arts Foundation

編集部だより

●表紙から すっかり秋も深まってきました。黄葉は陽の光に照らされるとより一層美しいですよね。今年も行き交う人々の目を楽しませてくれることでしょう。ただし、実が落ちるころはあの匂いも濃くなつてきます……。

○撮影場所 紀尾井坂

●編集後記 今号に登場の鶴澤藤蔵さん。お話の途中からは三味線を構えて「こういう場面では〜(ジャンジャンジャン)、こんな風に〜(デンデンデン)」と、聞き手の目をじっと見ながら実演してくださり、太神三味線の音色と音圧、そして藤蔵さんの気迫に圧倒され、思わず息をのんで聞き入ってしまいました。紀尾井ホールでも多数の義太夫公演が行われています。ぜひ間近で義太夫の技と迫力を体感していただきたいと思います。〈E〉

